

平成 31 年 2 月 25 日
世田谷区立喜多見小学校
学校関係者評価委員長

平成 30 年度 学校関係者評価 報告書

1 関係者評価の目的

- ① 学校の改善
 - ・評価したことをもとに、改善を加えてより良い学校を目指す。
- ② 評価を通した意見の交流
 - ・評価することを通して、学校や児童の実態について意見を交換し、課題の解決に近づける。
- ③ 保護者・地域との連携
 - ・本校児童を多くの人の目で見守ることができる関係づくりを重視し、学校と保護者・地域が連携することのできる関係の構築を目指す。

2 学校関係者評価の回収率

	児童(5・6年)	保護者	地域
配布数	224	780	45
回収数	219	489	30
回収率	98%	63%	67%
増減(昨年度比較)	-1.5%	-9%	-5%

3 学校関係者評価の集計結果 ※別紙参照

4 本校の課題

今年度の保護者・地域・児童の各評価項目について、「とても思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」「分からぬ」の合計の変動を見ながら考察した。

今年度の回収率は、児童については 1.5% 減少、保護者については 9% 減少、地域については 5% 減少した。今年度の保護者からの回収率は過去 5 年間で一番低くなっている。6 割の保護者のご意見で、本校の教育活動についての改善資料としてよいのだろうかと考える。回収率の 63% を 75% を超えるように、本校の教育活動に関心をもって評価していただくことが課題である。6 割の方々の結果は真摯に受け止めつつ、さらに自己評価の結果を踏まえ、課題解決に向けて取り組んでいく。

独自項目である「挨拶」「言葉遣い」については、保護者の方は大きく変化はないが、地域の方からの評価がとても思う・思うが 6 割程度に下がっている。これを受けて、学校や家庭における挨拶や言葉遣いの指導の浸透と習慣付けを課題としている。また、保護者や地域の方への情報提供や連絡の周知など、肯定的な回答が増加しているが、学校に関心をもち、理解と信頼を得られるようにすることも課題である。

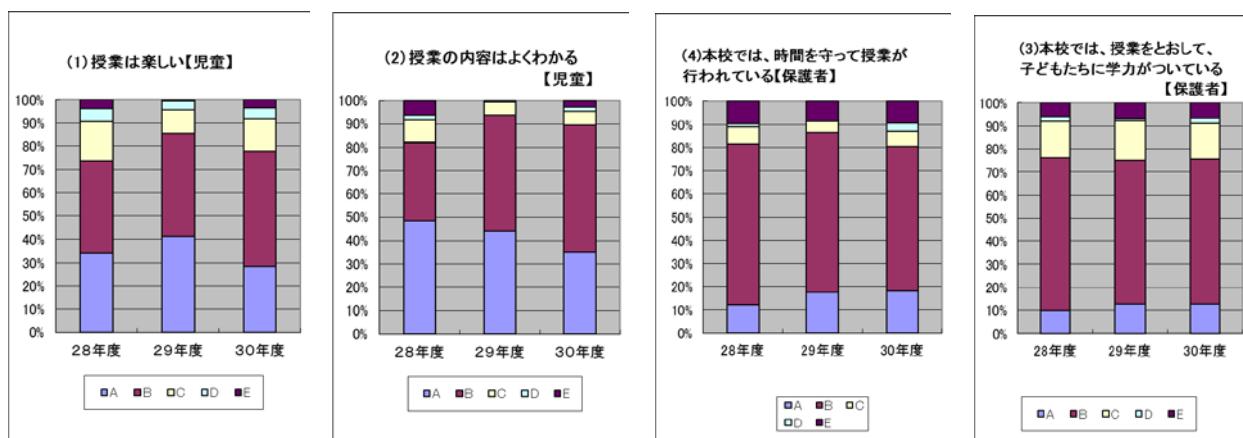
今年度も、同じ評価項目について児童・保護者・地域の結果と比較検討し、本校の課題について次のように報告する。以下の報告内容にある“肯定的な回答”を「とても思う・思う」とし、“否定的な回答”を「あまり思わない・思わない」とする。

① 学習指導について

児童の全ての項目において、昨年度と比較すると肯定的な回答がそれぞれ5%程減少している。ただし、「授業は楽しい」「授業の内容はよくわかる」の2項目については一昨年度よりも高い水準は保ち、また「黒板の書き方やプリントなどを工夫している」「時間を守って授業をしている」の2項目については一昨年度とほぼ同じ8割程度の児童が肯定的な回答をしている。引き続き、校内研究や日々の授業研究を通して教材・教具の工夫を行い、さらに多くの児童が授業を楽しめるようにする。

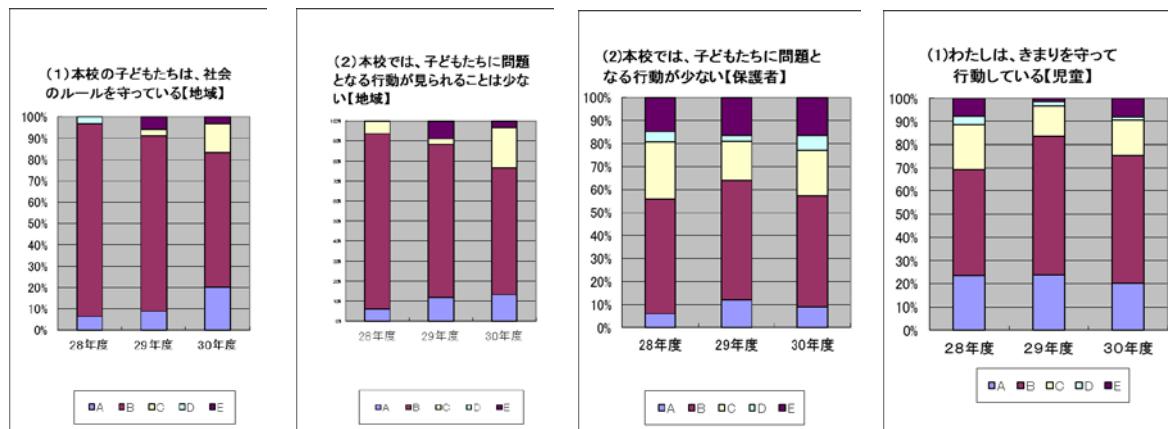
保護者の「本校では、子どもたちにとってわかりやすい授業をしている」「通知表で評価されたことは納得できる」「本校では、時間を守って授業が行われている」では、昨年度と比較すると肯定的な回答が減少しているものの、8割程度が肯定的な回答をしている。「本校では、時間を守って授業が行われている」の項目では、否定的な回答が1割程度に増えている。今年度からモジュールを設け、生活時程に大きな変更があったことも一因になっていると考えられる。それぞれの授業時間とともに、始業時刻や下校時刻等にも気を付けて指導していく。

また「本校では、授業をとおして、子どもたちに学力がついている」は微増している。引き続き、児童の実態をしっかりと把握し、その実態に合った学習の仕方を工夫していく必要がある。教職員が課題をもって授業力を身に付けるよう日々研究や研修に励んでいく。



② 生活指導について

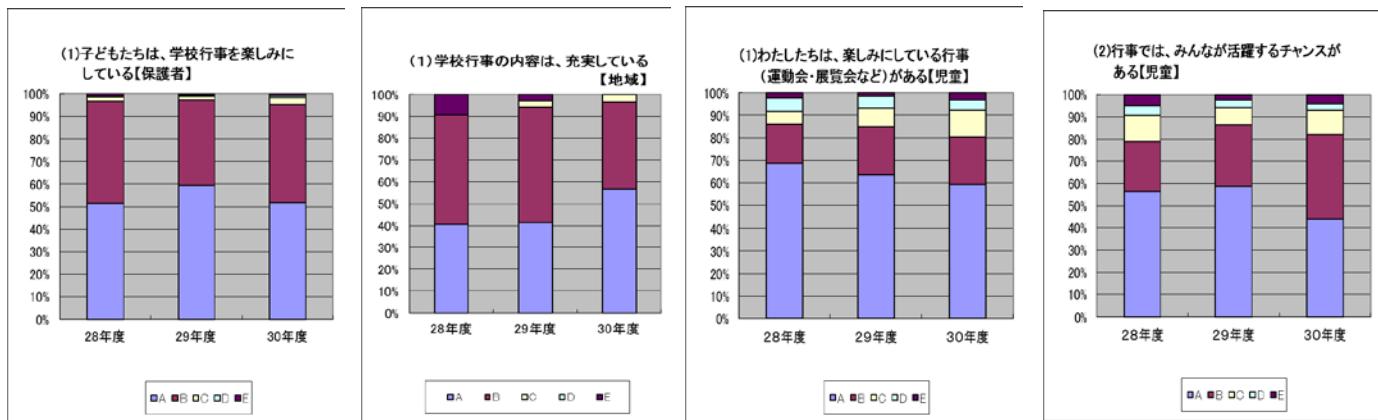
児童、保護者の生活指導の全ての項目において肯定的な回答が減少し、一昨年度以前の水準に戻っている。また、地域の「本校の子どもたちは、社会のルールを守っている」「本校では、子どもたちに問題となる行動が見られることは少ない」では、年々減少の一途を辿っている。「喜多見小学校よい子の一日」や「学習スタンダード」等、学校全体で守るルールが児童や教師に浸透してきているが、「きまりだから守る」という指導ではなく、「なぜ、きまりとなっているのか」と考えさせる指導・声かけを、その都度、児童個人や学級全体で行う必要がある。



③ 学校行事（運動会、学芸会、学習発表会、宿泊行事など）について

保護者、地域の方からも概ね肯定的な回答を得られている。保護者の「子どもたちは、学校行事を楽しみにしている」は全ての項目の中で肯定的な回答が最も多かった項目である。

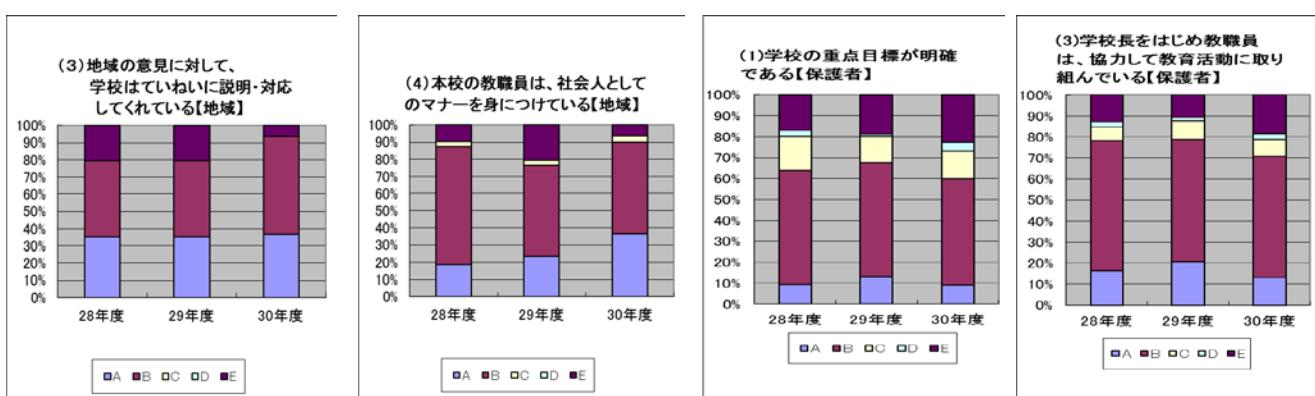
その一方で、児童の「わたしたちは、楽しみにしている行事がある」「行事では、みんなが活躍するチャンスがある」「先生はわたしたちのやる気を大切にした指導をしている」全ての項目で肯定的な回答が減少している。行事に対して、学級でめあてを立てたり振り返りを行ったりすることを通して、達成感を味わわせたり学級への所属感を高められるように指導するなど手立てを考えていく。また、昨年度から代表委員会が新たに設置され、その存在・活動は定着してきている。児童主体の活動を、委員会だけではなく各学年・学級でも増やしていくように、児童の様子や声を教員がより意識して把握する必要がある。



④ 学校運営について

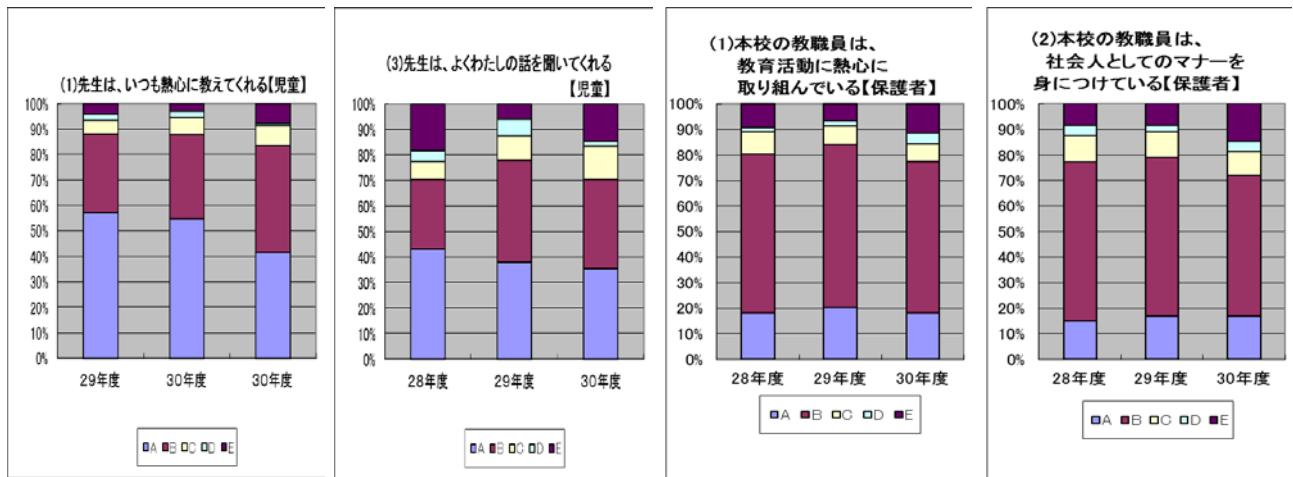
地域からの評価は、全ての項目で肯定的な回答が9割を超えており、特に「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応をしてくれている」「本校の教職員は、社会人としてのマナーを身につけている」について10%近く肯定的な回答が増加した。

一方、保護者は全ての項目で肯定的な回答が減少している。否定的な回答よりも「わからない」という項目が大きく増加していることが特徴的である。教職員がそれぞれ丁寧な対応を心がけていくとともに、組織的に対応すること、また組織で対応していることを情報として発信していく必要がある。昨年度に引き続き、年度始めの学校便りや保護者会にて説明の機会を設け、情報を発信していく。特に、年度当初に行われる保護者会の出席を促して、多数の方に来ていただけるよう工夫していく。



⑤ 教職員について

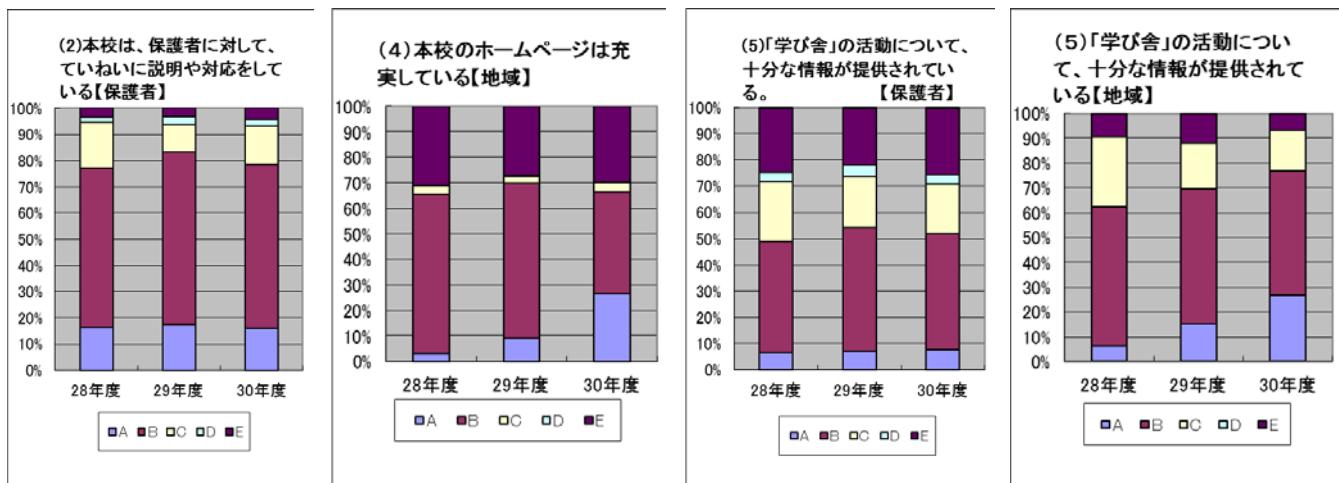
児童については、3つの評価項目すべてにおいて肯定的な回答が減少し、一昨年度以前の水準に戻っている。否定的な回答の中で、「思わない」は減少しているが、「あまりそう思わない」が微増している。また「わからない」が5～10%程増加している。保護者についても、「わからない」が増加した結果、肯定的な回答が減少している。数年前と比べれば、どの項目も肯定的な回答は増加しているが、教職員が課題意識をもって児童と接する必要がある。また、余裕をもって目の前の児童に関われるような環境にしていかなければならない。今後さらに児童・保護者からの信頼が得られるよう、親身になって児童の話を聞き、保護者への連絡や相談を密に行って連携を図っていく。



⑥ 広報活動・情報提供について

保護者の回答では、昨年度と比べ、全項目で肯定的な回答に若干の減少が見られた。特に「本校では、保護者に対して、ていねいに説明や対応をしている」の項目では、8割程度が肯定的な回答をしているものの、否定的な回答の割合が他項目よりも増加している。より丁寧な情報の提供が求められている。

地域の回答でも、4項目で肯定的な回答が減少している。「「学び舎」の活動について、十分な情報が提供されている」という項目では、肯定的な回答が増加傾向にある。今後地域に向けて、より情報を提供できるよう学校全体で取り組んでいく。また、さらに興味をもって見ていただくための手段を工夫してホームページを更新していく。

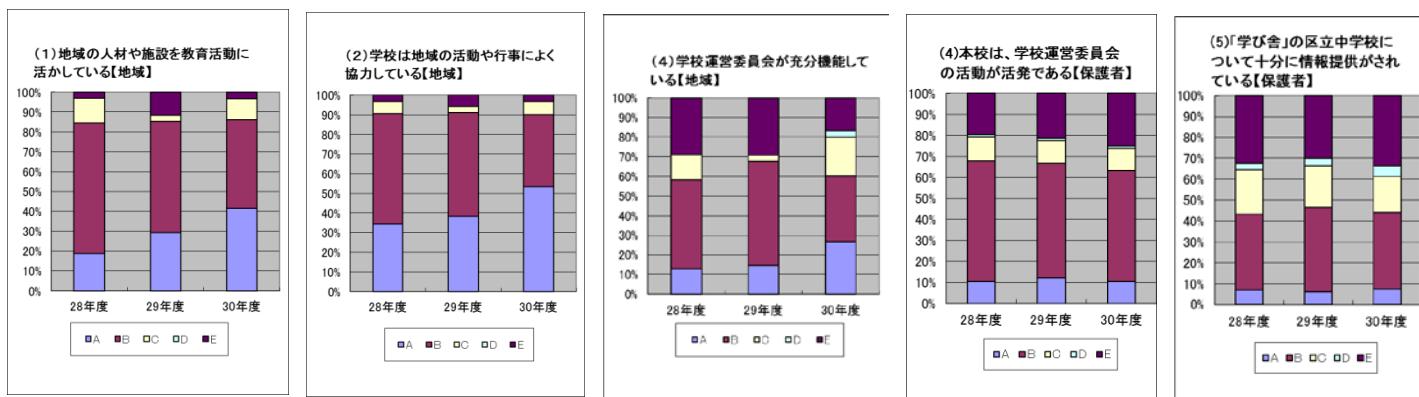


⑦ 地域との連携について

保護者・地域から、「地域の人材や施設を教育活動に活かしている」「学校は地域の活動や行事によく協力している」について、今年度も肯定的な評価が増加している。

その一方で、地域の「学校運営委員会が充分機能している」の項目について、今まででは「わからない」30%・否定的な回答が5%弱だったところが、「わからない」20%弱・否定的な回答が20%と大幅に値が変化している。保護者からも学校協議会・学校運営委員会の活動については「わからない」が2~3割を占めている。学校運営委員会の機能について見直しを図ると共に、情報を発信していく必要がある。

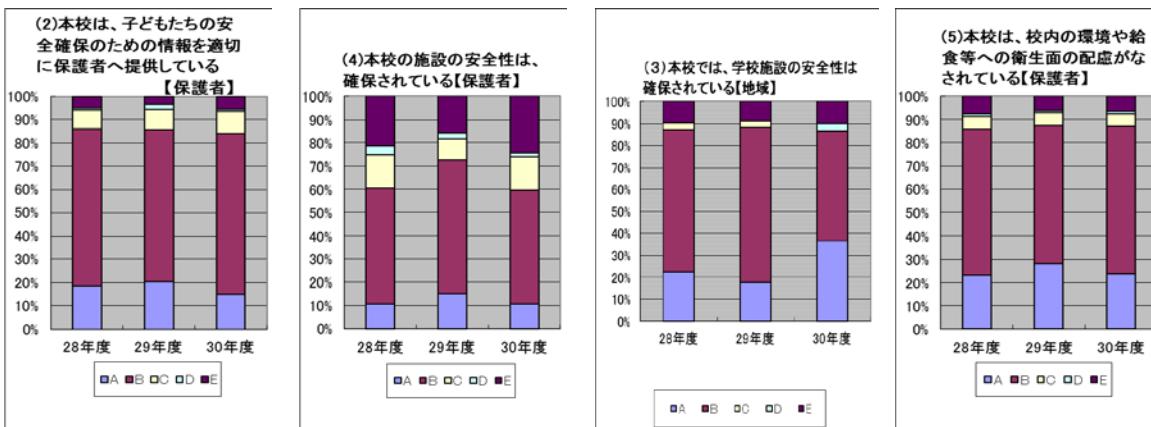
また、保護者から「『学び舎』の区内中学校について十分に情報提供がされている」の回答で否定的な回答や「わからない」の回答多かった。保護者に未だ情報が十分に届いていないことが伺える。学び舎の交流がより活発になるように、小中合同での授業研究や挨拶運動、育てた野菜の交換等の活動を充実させていき、学び舎での活動をより積極的に周知していくよう、今後も学校便りの配布やホームページでの紹介など、学び舎としてお互いの様子を伝えていく。



⑧ 学校の安全性について

(2)「本校は、子どもたちの安全確保のための情報を適切に保護者へ提供している」、(3)「本校は、災害時の対応を保護者に周知している」、(4)「本校の施設の安全性は、確保されている」の項目では、肯定的な回答が減少している。特に(4)では、「わからない」の回答が25%近くを占めている。各項目で否定的な意見が昨年度より増えた。学校便りやホームページなどの周知に努めなければならない。

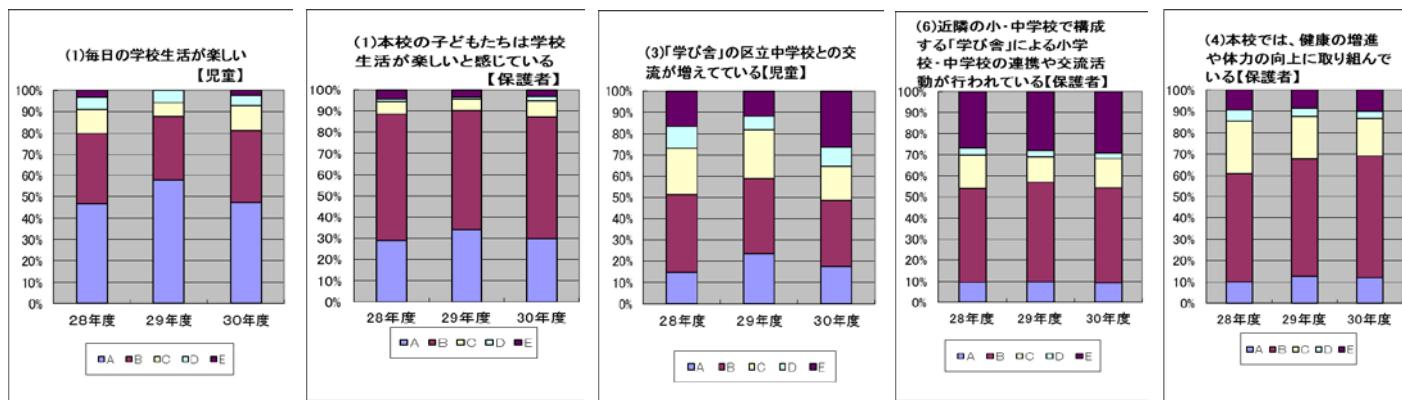
(5)「校内の環境や給食等への衛生面の配慮がなされている」についての肯定的な回答は、昨年度に引き続いている80%を超えており、給食試食会での調理の衛生管理についての説明、給食便りの内容の充実、校内美化等の取り組みが評価されたものと考えられる。今後も環境や衛生面の配慮を怠らず、継続して取り組んでいくようにする。



⑨ 学校生活全般について

児童について、「毎日の学校生活が楽しい」「喜多見小学校が好きである」と昨年度と比べると減少したもの約80%以上が肯定的な回答をした。保護者でも、「子どもたちは学校生活が楽しいと感じている」の項目の肯定的な回答は約90%近くとなっている。日々の生活や行事と共に、学級や学年での活動の充実や昨年度より始まった「なかよしタイム」を通して異学年交流が活発に行われたことなどが要因と考えられる。

「『学び舎』の区立中学校との交流が増えている」「近隣の小・中学校で構成する『学び舎』による小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」について「わからない」が増加している。引き続き、今後もあいさつ運動や育てた大根と小松菜の交換など活発化させ、情報を発信していく必要がある。



⑩ 独自項目

児童や保護者、地域の方に共通して、「あいさつ」「言葉遣い」の項目は肯定的な回答が今年度減少している。保護者と教職員と共に理解のもと、しつけ・指導に取り組んできたり、朝会や学級指導などで、児童に具体的な目標をもたせたりするなどしてきたが、結果につながっていない。今後も学校や家庭における目上の人への挨拶や言葉遣いの指導の浸透と習慣づけを継続して行う必要がある。

「漢字検定を通して家庭での学習時間が増えた」の項目では、肯定的な回答が昨年度より下がっている。今年度からより取り組みやすい実施方法に変更となったが、自発的に学習に取り組もうという意識を児童が今までには至らなかった。新たな手立てが必要だと思われる。昨年度から新設した「私は、本を読むことが好きである（児童）」という項目では、肯定的な回答が若干増加している。引き続き図書の時間や朝の読み聞かせ、読書の時間を確保し、本に向き合う時間を設けていくことが課題である。

